トヨタ自動車九州（株）宮田工場

自然と共生する工場づくり いきものマップ　春・初夏

2021

いきものと共にある工場の環境づくりを目指すために、トヨタ自動車九州株式会社宮田工場周辺に暮らす生き物の多様性を、季節ごとにわかりやすく伝えるいきものマップです。

※このマップは 2019 年 11 月から 2020 年 11 月に行った調査結果を元に作成しています。

1・キビタキ

オスは頭から背面が黒色，眉と胸から喉にかけて黄色，喉は濃いオレンジ色である。これが和名の由来となっている。

2・ウグイス

１年中生息しているが，ほとんど藪の中で生活しているため，声はよく聞くが姿を見ることはまれである。

3・ヒバリ

羽ばたきながら空中にとどまり，複雑な声でさえずる。そのためか，スズメと比べると翼の幅が広い。

4・ツバメ

飛ぶことが得意な鳥で，飛びながら水を飲んだり，餌を捕ったりする。２つに分かれた尾羽の長い方がオス。

5・チャイロカメムシ

成虫越冬する。イネ科で見られる。地味であるが，小楯板が背中全体を覆うことから，キンカメムシ類とわかる。

6・ミズカマキリ

水底などで成虫越冬する。肉食の水性カメムシである。よく飛翔する。

7・スクミリンゴガイ

南米原産の淡水生の巻き貝。通称ジャンボタニシである。陸上にピンク色の卵塊を生む。

8・アメリカザリガニ

北米南部原産のエビ。肉食の強い雑食性である。

9・ピロードツリアブ

年１化で春から初夏にだけ成虫が見られる。丸くふかふかの体で飛びながら吸蜜する。

10・ショウジョウシトンボ

若い個体は黄色いが，成熟すると真っ赤になる。

11・オオシマザクラ

日本の固有種。ソメイヨシノはこのオオシマザクラとエドヒガンの交配から生まれた栽培品種。

12・ギンリョウソウ

暗く湿り気のある森の林床などで見られる腐生植物。光合成はせず，菌類から栄養を得る。

13・フデリンドウ

直立した茎の上部につく花が筆のような形であることが名の由来。花は日が当たっているときだけ開く。

14・オオキンケイギク

北米原産の多年草。コスモスに似た頭状花をつける。ロゼットで越冬し，多数の種子も生産する。

15・ニホンアナグマ

巣穴を掘り，U 字溝を移動することが多い。溜め糞の習性がある。

16・ナミアゲハ

黒白のダンダラ模様。赤い花に集まることが多い。

17・モンキアゲハ

本土では最大級のチョウである。後翅の真ん中に大きな白斑がある。赤い花に集まることが多い。

18・ジャコウアゲハ

腹部側面に赤い斑紋がある。オスは黒っぽく，メスは茶色である。

19・ナガサキアゲハ

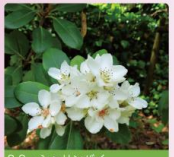
大きさはモンキアゲハに次ぎ，尾状突起がない。翅の基部に赤斑があり，メスには白斑もある。赤い花に集まることが多い。

20・クロコノマチョウ

成虫越冬する。春に見られる個体は，冬を越しているため，多くの場合，翅はぼろぼろである。

21・イスノキ

アブラムシによって生じる虫こぶは，風が吹くと笛のように音がするので，ひょんの木とも呼ばれる。



22・シャリンバイ

葉や枝が車輪状につき，花がウメに似ていることが和名の由来。初夏に咲く花は香りが強い。樹皮は大島紬の染料。

23・シロハツ

全体が白色のきのこで柄とヒダの境が青みがかる。なお、工場敷地周辺ではよく似たシロハツモドキが大勢を占める。

24・ニオイワチチタケ

全体が赤茶色の小型のきのこでカサに顕著な環紋がある。乾燥すると強いカレーの様な臭いを発する。

25・カムラサキハツ

暗赤紫色の小型のきのこ。柄は透明感のある白色。

26・ハラタケ

草原などに生える。マッシュルームの仲間でヒダは初め淡紅色、のち黒褐色となる。

27・ウラスジチャワンタケ

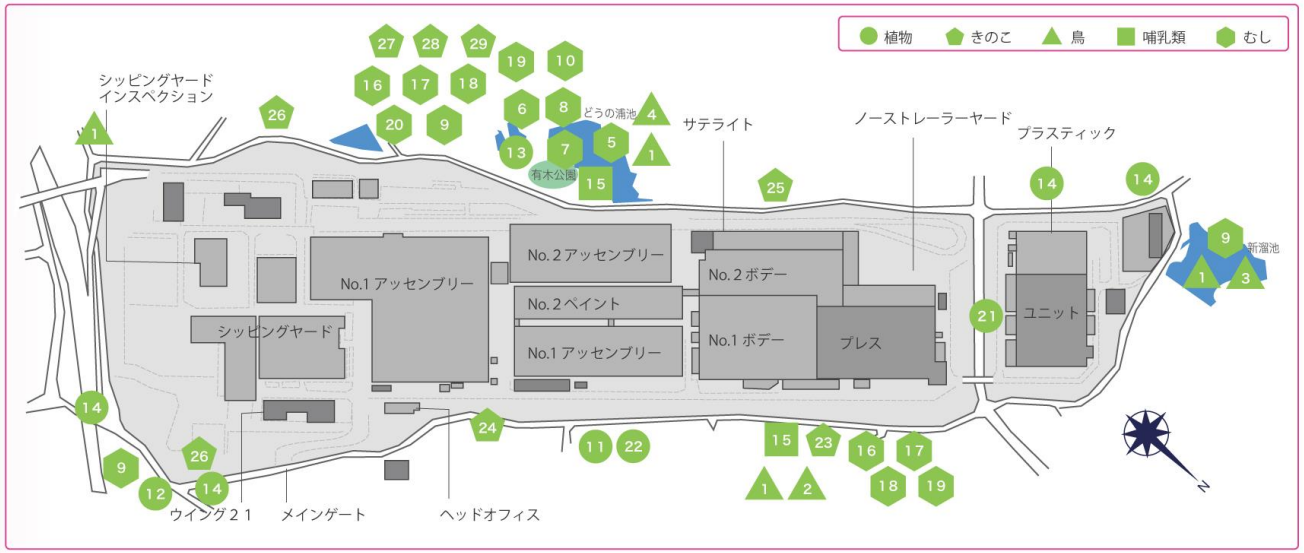
茶碗型のきのこで裏面にはしわひだが脈状に伸びる。

28・ヒトクチタケ

枯れたマツに発生する。ツヤのある上面と白っぽい下面は薬饅頭を思わせる。

29・キクラゲ

立枯れ木や倒木に発生する。乾燥に強くカラカラに干からびても一雨降ればプルプルに戻る。



絶滅危惧
準絶滅危惧
特定外来生物
その他の外来種

Toyota Kyushu Green Wave Project

TOYOTA MOTOR KYUSHU, INC.

KYUSHU 会社環境 HP

調査/撮影：筑豊の自然を楽しむ会様

トヨタ自動車九州（株）宮田工場

自然と共生する工場づくり いきものマップ　夏

2021

いきものと共にある工場の環境づくりを目指すために、トヨタ自動車九州株式会社宮田工場周辺に暮らす生き物の多様性を、季節ごとにわかりやすく伝えるいきものマップです。

※このマップは 2019 年 11 月から 2020 年 11 月に行った調査結果を元に作成しています。

1・タイワンウチワヤンマ

大型のサナエトンボで，池の周りをたくさんの個体が飛び回る。腹端に団扇状の構造がある。

2・カトリヤンマ

薄暗くなった夕方に池近くの林縁を飛ぶ。尾毛が非常に長い。

3・ギンヤンマ

オスは池の周りを力強く周回する。腹部に銀色の部分がある。

4・スズムシ

声はよく通るが，姿は見つけにくい。白い触角が動くと見つけられることもある。

5・カヤキリ

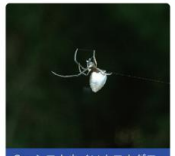
夏の夜，脚を擦り合わせるようなビーという音を出す。

6・ショウリョウバッタモドキ

草原性の華奢なバッタで，飛ぶときに音を立てない。

7・ヤリグモ

クモを食うクモである。餌となるクモの張った網に侵入し，粘球のついた糸を投げつけてクモを捕らえる。



8・シロカネイソウロウグモ

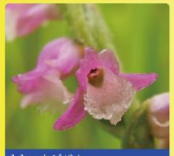
ジョロウグモなどの巣に居候して，網主の獲物を盗み食いする。1 つの網に多数見られることもある。

9・ゲホウグモ

夜，極めて目の細かい網を張る。昼間は枝先などに静止している。

10・サツマノミダマシ

昼間は葉などに作った隠れ家に隠れ，夜に円網を張る。

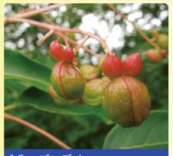


11・ネジバナ

茎に多数の花が螺旋状につく。花は小さいが，色や形は華やかさがあり，ランであることがよくわかる。

12・ウバメガシ

材が硬く，備長炭の材料としてよく知られる。堅果は 2 年目の秋に熟す。



13・ゴンズイ

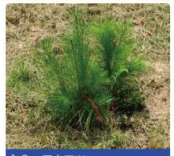
果実は肉質で，赤く熟すと反り返って黒色の種子が裸出する。

14・クズ

山野の林内や林縁，土手などに自生。根から葛粉をとる。繁茂しやすく，広がるのも速いので注意が必要。

15・シンテッポウユリ

タカサゴユリとテッポウユリの交配により作られた園芸種。近年急速に広がっている。



16・アカマツ

種子は母樹の球果から風を使って移動する。陽樹のため，明るい場所でしか成長できない。

17・コナラ

種子は母樹から落ちて転がるかネズミ等によって移動する。陽樹のため，明るい場所でしか成長できない。

18・ホンドタヌキ

夏毛で痩せてみえる。冬にはふっくらとする。溜め糞の習性がある。

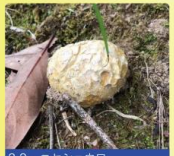
19・ゴイシシジミ

20・ササコナフキツノアブラムシ

完全に肉食性のシジミチョウで，幼虫期はササコナフキツノアブラムシなどを捕食し，成虫になると，アブラムシが出す甘露を吸う。

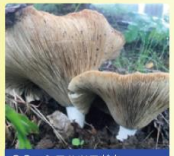
21・ミツバ

山地の日陰などで見られ，山菜としても人気。三つに分かれた小葉ばかりが目立つが，夏には可憐な花が咲く。



22・ニセショウロ

類球形で黄土色のジャガイモによく似たきのこ。草地や荒地に発生する。



23・シロハツモドキ

シロハツによく似るが，柄とヒダの境は青みがかからない。シイ、カシ林に群生する。有毒。

24・キイボカサタケ

全体が黄色のきのこでカサの中央にイボ状の突起がある。

25・シロオニタケ

テングタケの仲間でカサや柄の下部に多数のイボを持ち、カサの直径が２０cm にもなる大型のきのこである。

26・クロハツモドキ

成長初めは白色、のち黒色となる。柄やヒダに傷をつけると赤変し、やがて黒変する。

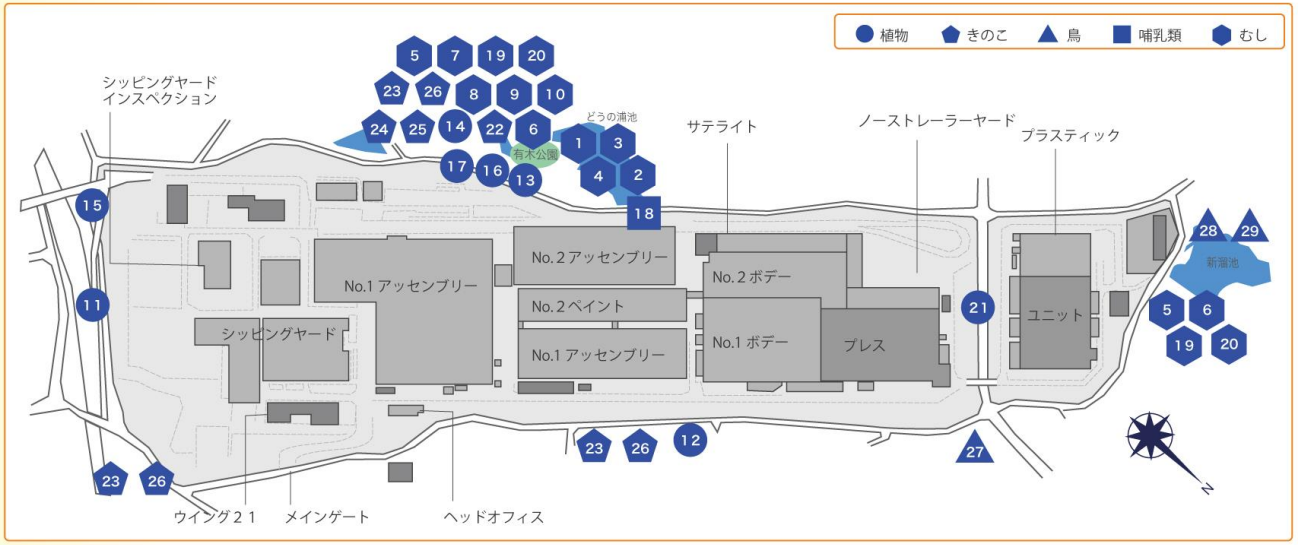
27・ミサゴ

魚を専門に捕るタカ。池の上で停空飛翔（ホバリング）を行い，湖面に近づいた魚目掛けて飛び込み，足で捕らえる。

28・ソウシチョウ

29・ガビチョウ

両種とも囀りは大声で似ている。ガビチョウの囀りにはピーという長音が入るが，ソウシチョウにはそれがないことで識別できる。



絶滅危惧
準絶滅危惧
特定外来生物
その他の外来種

Toyota Kyushu Green Wave Project

With Nature

TOYOTA MOTOR KYUSHU, INC.

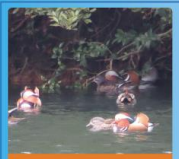
KYUSHU 会社環境 HP

調査/撮影：筑豊の自然を楽しむ会様

トヨタ自動車九州（株）宮田工場
自然と共生する工場づくり
いきものマップ　秋・冬
2021

いきものと共にある工場の環境づくりを目指すために、トヨタ自動車九州株式会社宮田工場周辺に暮らす生き物の多様性を、季節ごとにわかりやすく伝えるいきものマップです。

※このマップは 2019 年 11 月から 2020 年 11 月に行った調査結果を元に作成しています。

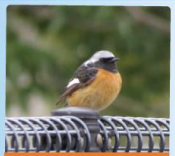


1・オシドリ

オスはカモの中で最も目立つ。どんぐりを主食とする一風変わったカモ。

2・ノスリ

冬鳥で，ネズミやモグラ類など小型哺乳類を主食とするタカ。北側で観察される。



3・ジョウビタキ

オスもメスも翼に白い斑があり，紋付鳥とも呼ばれている。火打石を打つような声で鳴くため，ヒタキという名がついた。

4・ホオジロ

オスは電線や木の頂きなどの高い場所にとまりさえずる。冬場は田畑や草地などの地上で群れる。

5・シジュウカラ

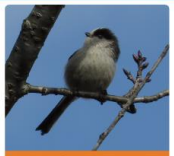
ツーピーツーピーという声を繰り返してさえずる。黒いネクタイのような模様が特徴。巣箱を利用する。

6・コゲラ

スズメくらいの大きさのキツツキ。冬は、エナガやシジュウカラなどと行動を共にする。

7・メジロ

名前の通り目の周りが白い。上面はいわゆるウグイス色をしているためウグイスとよく混同される。



8・エナガ

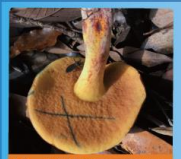
長い尾を除くと、日本で最も小さな鳥である。群れで行動し、シリリリと鳴きながら細枝の虫などをとらえる。

9・ヤマガラ

さえずりはシジュウカラと似ているが、ゆったりとしている。ニーニーという声をよく出す。

10・オトコエシ

オミナエシに似るが，花は白く，姿もたくましさがある。小さな花を多数咲かせ，秋の野を彩る。



11・アメリカウラベニイロガワリ

カサ裏が赤橙色のスポンジ状で、傷をつけるとたちどころに青変する。

12・ヌメリイグチ

カサの表面はいちじるしく粘性があり，裏面はスポンジ状である。柄にツバを有する。マツの周辺に発生する。

13・チチアワタケ

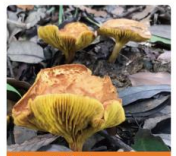
ヌメリイグチによく似るが柄にツバが無い。若い時に柄やカサ裏から黄白色の乳液を分泌する。

14・ハツタケ

マツの共生菌で工場敷地周辺ではアカマツの周りに生える。傷をつけると赤変し、のちに緑青色になる。

15・オオワライタケ

全体がこがね色でシイ・カシ類の根元に束生する。幻覚性の毒を持つ。



16・キヒダタケ

イグチ類ではあるが，カサの裏がスポンジ状ではなくヒダ状である。

17・ヒヨドリバナ

明るい草地を好む。甘い香りがし，アサギマダラが吸蜜・吸汁する植物として知られる。

18・ラクウショウ

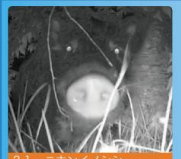
北アメリカ原産。根元が水につかるような場所で生育することが多く，ヌマスギともよばれる。紅葉も美しい。

19・クロガネモチ

雌雄異株。新枝が黒味を帯び，葉も乾くと黒鉄のような色になることからこの名がついた。

20・ヤブツルアズキ

アズキは、このヤブツルアズキを原種とし、品種改良されたものといわれている。山野の明るい場所好む。



21・ニホンイノシシ

秋にはスダジイなどのどんぐりをもとめて歩き回る。嗅覚に優れる。

22・オオヤマトンボ

大型のトンボで，夏の終りから池の周りを悠々と飛び回る。

23・ヒメクダマキモドキ

晩秋まで見られる樹上性の大きめのツユムシで，ジジ，っと小さい音を出す。

24・ツチイナゴ

成虫越冬する。ススキなどの根元でじっとしていることが多いが，暖かい日には日光浴をすることもある。

25・ヌルデミミフシ

ヌルデシロアブラムシによってヌルデに生じる虫こぶ。多量のタンニンを含み，お歯黒の鉄漿に用いられた。

26・テングチョウ

成虫越冬する。翅表はカラフルで，翅裏は枯れ葉のようである。触角の間のパルピが伸びて天狗の鼻に喩えられる。

27・ルリタテハ

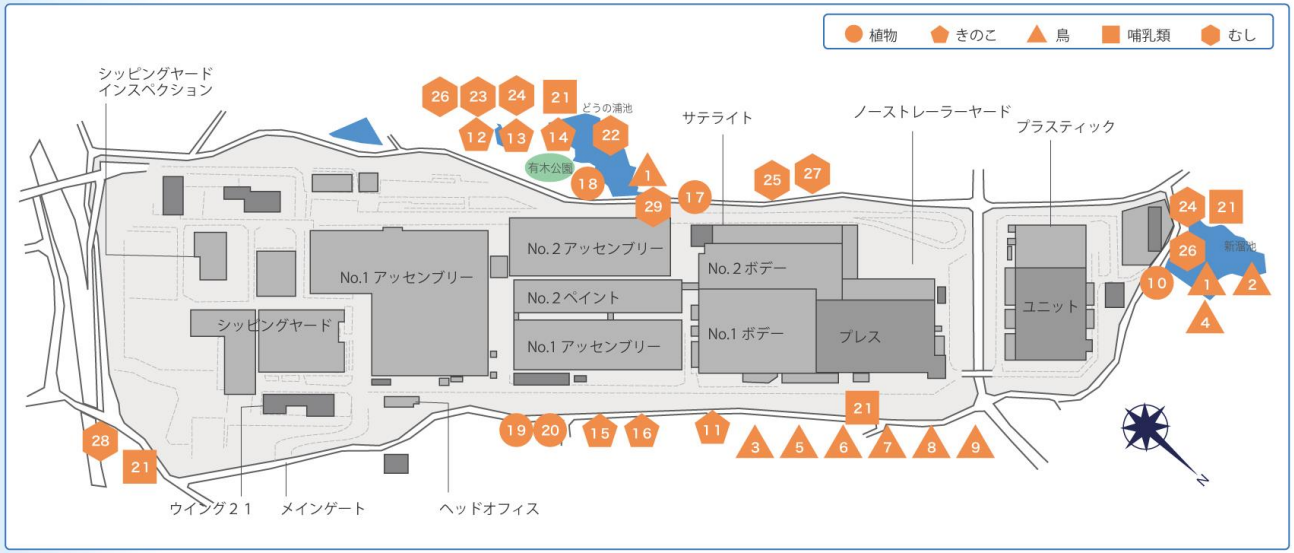
成虫越冬する。翅表はきれいな青色で，翅裏は黒っぽく，後翅の真ん中にカタカナのノという模様がある。

28・アツブタガイ

陸生の巻き貝で，マイマイ類とは異なり，蓋があり，触角は２本で基部に眼がある。和名のとおり蓋は厚い。

29・オオクビキレガイ

陸生の巻き貝で，農作物の食害や，在来の小型陸産貝類の捕食が懸念される。和名のとおり成貝では殻の先が欠損する。



絶滅危惧
準絶滅危惧
特定外来生物
その他の外来種

Toyota Kyushu Green Wave Project

TOYOTA MOTOR KYUSHU, INC.

KYUSHU 会社環境 HP

調査/撮影：筑豊の自然を楽しむ会様